

ポスト2010年目標日本提案

1 中長期の目標（2050年）

人と自然の共生を世界中で広く実現させ、生物多様性の状態を現状以上に豊かなものとするとともに、人類が享受する生態系サービスの恩恵を持続的に拡大させていく。

2 短期の目標（2020年）

生物多様性の損失を止めるために、2020年までに、

- ①生物多様性の状態を科学的知見に基づき地球規模で分析・把握する。生態系サービスの恩恵に対する理解を社会に浸透させる。
- ②生物多様性の保全に向けた活動の拡大を図る。将来世代にわたる持続可能な利用の具体策を広く普及させる。人間活動の生物多様性への悪影響を減少させる手法を構築する。
- ③生物多様性の主流化、多様な主体の参画を図り、各主体により新たな活動が実践される。

3 個別目標

(1) 生物多様性への影響が間接的で広範な主体に関連する目標

個別目標 A：生物多様性の保全と持続可能な利用に対する多様な主体の参加を促進する。

個別目標 B：開発事業、貧困対策と生態系の保全を調和させるための手法を普及・確立させる。

(2) 生物多様性への影響が直接的で対象が限定される目標

個別目標 C：生物資源を用いる農林水産業などの活動において、持続可能な方法による生産の比率を高める。

個別目標 D：生物多様性への脅威に対する対策を速やかに講じる。

(3) 生物多様性の状態それ自体を改善するための目標

個別目標 E：生物種を保全する活動を拡充し、生態系が保全される面積を拡大する。

(4) 生物多様性が人間にもたらす恩恵に関する目標

個別目標 F：生態系サービスの恩恵を持続的に享受するための仕組みを整備し、人類の福利向上への貢献を図る。

(5) 上記の目標を効果的に実現するための目標

個別目標 G：伝統的知識の保護と ABS（遺伝資源へのアクセスと利益配分）の取組を促進するための体制を整備する。

個別目標 H：地球規模で、生物多様性及び生態系サービスの状態を的確に把握し、その結果を科学的知見に基づき分析評価するとともに、それに対する認識を広め、理解を促進する。

個別目標 I：生物多様性の保全と持続可能な利用を達成するための資金的、人的、科学的、技術的な能力を向上させる。